

平成 25 年度 安全登山普及指導者中央研修会 開催要項

- 1 目 的 登山者の指導的立場にある人を対象として、チームの実力に合った安全な登山を実践できる知識と技術の習得を目指す。
- 2 主 催 独立行政法人日本スポーツ振興センター
- 3 後 援 文部科学省
- 4 協 力 公益社団法人 日本山岳協会 財団法人 全国高等学校体育連盟
- 5 期 間 平成 25 年 11 月 8 日(金)～11 月 10 日(日)の 3 日間
- 6 会 場 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所、並びに周辺山域及び雑穀谷岩場

*国立登山研修所までの経路

JR富山駅で乗り換え→富山地方鉄道立山線立山駅(約1時間)→国立登山研修所(徒歩 2 分)

7 研修内容・応募資格等

(1)研修内容・日程 ※「研修会日程表」(裏面)

【登はん技術研修コース(主に登はん・岩稜を中心とした山行を実践、指導されている方対象)】

岩場等におけるロープを用いた安全確保を中心に、その理論的裏付けと技術を身に付け、指導・普及を図るコース

【読図・プランニング研修コース(主に縦走を中心とした山行を実践、指導されている方対象)】

・地形図を中心に登山計画を立案して、チーム全体を安全に率いる能力を身に付け、指導・普及を図るコース

・GPSを積極的に使用した読図・プランニング研修(定員若干名)を今回より行ないます。(詳細は別紙要項を参照)

◇ 参加コースは各自の登山志向や力量に応じて選択してください。

◇ GPSを積極的に使用した読図・プランニング研修はGPSを個人で所有していて、カシミールの操作が出来ることが参加の条件です。

◇ 研修日程・場所、内容等は天候などにより変更することがあります。

(2)応募資格

ア 各山岳会(クラブ)が推薦するリーダー若しくはリーダー候補者

イ 都道府県山岳連盟(協会)指導・普及担当者及び推薦者

ウ 都道府県・市区町村教育委員会の登山担当者及び地域・職域における登山の指導者

エ 高等学校・高等専門学校登山(山岳)部・大学山岳部等の指導者

オ 中高年安全登山指導者講習会修了者

カ その他登山者(中高年登山者を含む)の指導に携わる者

(3)募集人員 計 35 名(各コース合計)

※ 参加者の希望コース・レベル等に応じて班分けを行います(運営上希望通りにならない場合もあります)。

8 講 師 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所講師

9 参加申込方法

- 都道府県山岳連盟(協会)・山岳会(クラブ)からの参加者(中高年安全登山指導者講習会修了者を含む。)については、各都道府県山岳連盟(協会)又は各山岳会(クラブ)が推薦のうえ申し込んでください。
- 都道府県・市区町村教育委員会からの参加者及び地域・職域からの参加者(中高年安全登山指導者講習会修了者を含む。)については、当該教育委員会又は地域・職域の所属長が推薦のうえ申し込んでください。
- 公立高等学校からの参加者については、各都道府県教育委員会が推薦のうえ申し込んでください。
- 大学、国立大学附属高等学校、高等専門学校、及び私立高等学校からの参加者については、各学長・学校長が推薦のうえ申し込んでください。
- その他登山者(中高年登山者を含む)の指導に携わる者(ツアー会社の添乗員・登山用具店の勤務等)は、所属先の長の推薦を受けて申し込んでください。

(1)推薦者は、下記のア～カをそろえて、(2)の住所へ国立登山研修所長宛に申し込んでください。

ア 申 込 書(別紙1) 推薦者が記入してください。

イ 登山経歴書(別紙2) 参加申込者本人が記入してください。

ウ 健康・体力調査票(別紙3) 参加申込者本人が記入してください。

エ 参加確認書(別紙4) 参加申込者本人が署名、捺印してください。

* 参加申込者が未成年の場合は本人及び保護者が署名、捺印してください。

オ 返信用封筒（参加申込者宛）

必ず長形3号封筒を使用し、宛名の面に郵便番号、住所、氏名を記入し、90円切手を貼付してください。

カ 返信用封筒（推薦者宛）

必ず長形3号封筒を使用し、宛名の面に郵便番号、住所、宛先名を記入し、80円切手を貼付してください。

(2) 申込先 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6 電話(076)482-1212 ファックス(076)481-1534

(3) 申込期間 平成25年9月6日(金)～10月4日(金) 必着

10 参加者の決定

(1) 国立登山研修所で参加申込書類をもとに選考の上、参加者を決定します。

(2) 参加の可否については、推薦者と参加申込者双方に通知します。

参加決定者は参加承認通知が届き次第、同封の健康診断書を提出してください。

※研修会前3か月以内のもの（内容を満たせば別様式でも可）

11 修了証の授与

この研修会に参加し、所定の課程を修了した者には修了証を授与します。

12 参加に当たっての留意事項

(1) 十分にトレーニングを行い、体調を整え、リーダー、指導者として明確な目的意識を持って参加してください。

(2) 参加者は次の費用を負担してください。

① 国立登山研修所における宿泊費 1,000円

② 国立登山研修所における食費6食分 5,000円※行動食は各自

③ 傷害保険料 ※ 参加承認通知時に連絡する保険(料)の中から各自選択

④ 写真代 900円

※ ①～④は受付時に集金します。なお、金額は変更する場合があります。

(3) 参加者は、次のものを持参してください。

① 健康保険証(全面コピーでも可)

② 研修中の行動食2日分(昼食はおにぎり2個程度の弁当です。不足については行動食で対応してください。)

③ 着替え ※ 国立登山研修所では入浴、洗濯ができます。

④ 研修内容(活動の記録・写真等)を持ち帰るための、ウイルスチェック済みのUSBメモリーやCD-R等。

(4) 別添の個人装備表に記されているものを持参いただきますが、不明な点やどうしても準備できないものがある場合は必ず国立登山研修所に連絡してください。

(5) 参加申込後、やむを得ず参加できなくなった場合は、直ちに推薦者と国立登山研修所双方に必ず電話かファックスで連絡してください。Eメールでの連絡は受け付けません。

(6) 参加者は、研修会第1日目の午後12時50分までに受付を終了してください。

体調を整え、余裕を持って研修会に臨めるよう、前日から国立登山研修所に宿泊することができます。

なお、食事は各自で用意してください(自炊可)。

(7) 国立登山研修所周辺は携帯電話の通話圏内であり、公衆無線LANの使用できるコーナーを設けています。

13 事前課題

参加承認通知時に以下の事前課題を同封しますので、国立登山研修所到着時に提出してください。

【登山技術研修コース】

- ・登山ルート研究ノート(国立登山研修所周辺の概念図や研修ルートとして希望するルート等の情報を整理する内容)
- ・ロープワーク(研修時に必要な技能を確認する内容)

【読図・プランニング研修コース】

- ・山行ルート研究ノート(国立登山研修所周辺の概念図や研修ルートとして希望するルート等の情報を整理する内容)
- ・基礎ロープワーク(研修時に必要な技能を確認する内容)

GPS を活用した読図研修班募集要項

1. 募集定員 若干名

2. 受講要件

個人で GPS を所有しており、PC、GPS、との連携の基本操作が出来ること。(カシミールと連携できることが好ましい)なお、参加要件として一定の読図ができることを必要とする。

3. 事前課題

1. 読図の基礎を問う課題

* GPS コースの参加要件として一定の読図ができることが必要なため、等高線の理解度や、GPS 頼りに陥らない読図能力を確認する課題。

2. PC、GPS、カシミールとの連携をマスターするために、指定ルートとウェイポイントおよびルートを作成させる課題。

3. 研修生自身のGPSを使用したうえでの体験談と自分が GPS をどう活用したいかを考えさせる課題。(それを実技で反映させて、伝達講習のツールとして活用)

4. 講義内容(2時間設定)

GPS の仕組み・特長/限界・機種による差異・GPS 本体の使用方法確認を中心とした講義を行なう。

主な講義内容

* GPS でできることや GPS データについての基礎的知識

* 紙地図と連動させたナビゲーションへの応用

* コンパスと連動させたナビゲーションへの応用

5. 実習

カシミールとの連動操作を中心として以下の内容を実習する

1. カシミールによるルートプランニング

2. 要領のいい紙地図の作り方(ルート維持がしやすい拡大図・緯度経度線を入れる)

3. ルートの作り方

4. ウェイポイントの作り方

5. ログの整理

6. 実技で指導する項目

研修第2・3 日目の実技で扱う項目

現在地の表示と紙地図との対応

カシミールを使用したルートナビゲーション

トラックバック

GPS と紙地図、コンパスの具体的な使用方法

研修の進捗により第3 日目の実技で扱う項目

GPS が不良の場合を想定したりカバリーの研修もしくは、天候不良などでルートを変更しなければいけなくなった時の研修(例えば沢の分岐等の判断)

7. 実技を実施する登山ルート

GPS を十分に活用した実技を実施するために、登山道だけでなく、分岐が複雑でルート判断が困難なルートを設定する必要があることから、以下のモデルコースを設定している。

① 大辻山白岩川から北尾根途中より西に延びる大辻中尾根を下降、林道上より地図に記載のない大辻登山本道を経由して長尾山に至り、南に下降する尾根をたどりライオンズの森に出るコース。

② 来拝山東の城前峠より、地図上に記載のない登山道をキャンプ場に向かうコース

③ 雄山神社裏より登山道のない尾根地形を利用して、林道に戻るコース

8. 伝達講習

地図を利用したナビゲーションに加え、GPS を効果的に活用するスキルを伝達講習の主眼に置き、安全登山の確立の1 手段として広く指導することを求める。

平成25年度安全登山普及指導者中央研修会 日程表

研修第1日目						研修第2日目						研修第3日目					
登山技術研修コース			読図・プランニング研修コース			登山技術研修コース			読図・プランニング研修コース			登山技術研修コース			読図・プランニング研修コース		
プログラム 研修予定場所等	研修項目	研修内容及び到達目標	プログラム 研修予定場所等	研修項目	研修内容及び到達目標	プログラム 研修予定場所等	研修項目	研修内容及び到達目標	プログラム 研修予定場所等	研修項目	研修内容及び到達目標	プログラム 研修予定場所等	研修項目	研修内容及び到達目標	プログラム 研修予定場所等	研修項目	研修内容及び到達目標
7 8 9 10 11 12																	
13	受付 事務室前		受付 事務室前			13					13						
14	開会式 オリエンテーション	所内生活についての諸注意等（写真撮影）	開会式 オリエンテーション	所内生活についての諸注意等（写真撮影）		14					14						
15	講義 トレーニング室	「確保理論」 壁落を停止させる原理やメカニズムを理解する。	講義 講義室	「読図とナビゲーション」 地図をもとに登山計画を立て、リーダーとしてチームを安全に導く方法を学ぶ。		15					15						
16	班別研修 所内ロッククライミング訓練施設 所内山岳トレーニングコース 等	①用具の使用法 登山用具の正しい使用法を確認し、安全な登山に関する認識を高める。 ・ハーネス・ヘルメット ・確保器具・確保用グローブ （確保器具と確保姿勢の相関関係） ・チョック・カム・ピトン・ボルト （基本的な使用法と使用上の倫理） ②用具の携行法 用具の携行法と整理の仕方を確認する。 ・ハーネス・ギアラック （使用法と整理のポイント）	班別研修 所内及び山岳トレーニングコース 等	①登山の準備 ・行動計画 登山の準備を通じ、リーダーの役割を学ぶ。 ルート研究の事前課題・地形図をもとに行動計画の検討を通じて、登山の諸準備についてのリーダーの役割を認識する。 食料計画の事前課題を参考に食料計画を立て、エネルギーや水分補給の大切さを学ぶ。 ②生活技術 ・ツエルト設置 ・火器取り扱い 危急時のシェルターとなるツエルト設置の知識と技術を習得する。 安全な専営場所の選択と設置技術を習得する。 火器の取扱い・作業手順等の基本を確認する。		16					16						
17						17					17						
18	装備整理		装備整理			18	研修所帰着 装備整理		研修所帰着 装備整理			18					
19	夕食 食堂 *入浴は適宜 （講師打合せ会）		夕食 食堂 *入浴は適宜 （講師打合せ会）			19	夕食 食堂 *入浴は適宜 （講師打合せ会）		夕食 食堂 *入浴は適宜 （講師打合せ会）			19					
20	班別協議 所内	③ロープの結び方 メインロープの結び方を確認する。 懸垂下降時のロープ同士の連結方法を確認する。 ・ダブルフィッシャーマン ・オーバーハンドノット 研修第1日の振り返り	班別協議 所内	③個人・共同装備確認 個人装備の不備による事故防止やツエルト、火器の点検、使用法を習得する。 研修第1日の振り返り		20	班別協議 所内	研修第2日の振り返り	班別協議 所内	研修第2日の振り返り		20					
21	就寝 宿泊室		就寝 宿泊室			21						21					

研修コース
研修内容及び到達目標
前日の研修内容をもとに総合的な実技研修を行う。
講義室
会)